

沖縄平和学習映像教材

参考:事後学習 探究ワーク(共通)

「沖縄戦のリアル」を伝える 動画・スライド・ポスター制作

学習指導案

Qspace-llc 作成 有効期限 1 年間

事後学習課題

探究ワーク:「沖縄戦のリアル」1分間動画作成 (または1分間スピーチ)

事前学習および現地での体験学習証言を受けて、自分自身の言葉で沖縄戦を表現します。

「共感者」としての語り

現地で受け取った誰かに伝えたい「共感」を映像化

表現の創造

ショートスピーチ、またはSNS風の短尺動画を制作。歴史的事実と個人の共感を融合させ、視聴者に強く訴えかける作品を創り上げます。沖縄で撮った写真などを活用します。

平和への思考

制作過程を通じて、現在の沖縄や沖縄の歴史、平和について多角的に考察し、未来に向けて自分たちが何を語るべきかを深く考える機会とします。



1 分間で伝える 事後学習の指導案

中学生・高校生対象 所要時間 50 分 表紙を含む A4 4 枚

注意:映像作成のほか、スライドの活用や A3 用紙ポスターの作成でもよい。教員が利用できる機器や学級の状況に応じて形式を指定するか、生徒が選ぶことも考慮したい。共通の目的は、事実と現地体験をもとに、一番伝えたいことを自分の言葉で表すこと。

また、時間が許せば、実際に1分間スピーチを行うことも効果的である。

1 本時の目標と準備

①見聞した事実と、自分の感情・考えを区別する。②受け手に伝えるメッセージを一つに絞る。③根拠・体験・問いをつなぎ、試演と対話で伝え方を改善する。

準備:提示スライド 3 枚、現地メモ・写真、事前学習資料、記入用紙。動画・スライドは端末と簡単なひな形、ポスターは A4～A3 用紙・筆記具・写真。受け手と提出方法を先に決め、個人制作・ペア共有を基本とする。

事前に写真・メモを整理し、端末と保存先を確認する。50 分では、写真中心の簡単な動画・スライド・ポスターを制作し、ペアで共有する。撮影を要する動画や全員の発表は、追加時間を確保する。

2 本時の展開 50 分

時間	学習活動	教員の働きかけ・指導上の留意点	学習の狙い・評価
5 分	目的・形式を確認する 動画・スライド・ポスターから形式を決める。受け手と一番伝えたいことを確認する。	共通の目標と完成形の目安を示す。 発問例①「誰に伝えたいですか」 発問例②「何を一番残したいですか」 声かけ「形式を決め、伝えたいことを一文でメモしましょう」	狙い:目的を持って制作する。 評価:形式・受け手・メッセージが明確か。
8 分	体験と根拠を整理する 写真・メモを見返し、事実と自分の考えを分ける。使う資料と場面を選ぶ。	事実は資料で確認し、感想には『私は』を付けるよう促す。 発問例①「心に残った場面は何ですか」 発問例②「それを支える事実は何ですか」 声かけ「写真・メモから 1 つ選び、資料名と自分の受け止めを書きましょう」	狙い:根拠と体験をつなぐ。 評価:事実と本人の考えを区別できるか。
12 分	構成と原稿を作る 導入・展開・結びをメモし、使う言葉と素材を配置する。ペアに構想を短く説明する。	前半 8 分で構成・原稿、後半 4 分で説明と助言。動画は約 1 分、他形式も約 1 分で説明できる内容に絞る。 発問例①「最初に何で関心を引きますか」 発問例②「最後にどんな問いを残しますか」 声かけ「3 つの区切りで内容を並べ、交代で説明し、助言を返しましょう」	狙い:受け手に届く順序を考える。 評価:メッセージと構成がつながるか。
20 分	作品を制作・点検する 前半 15 分で制作。後半 5 分で自分で見直し、言葉・素材・出典を確認する。	ひな形を使い内容を優先する。開始 10 分後に進捗を確認し、残り 5 分で点検に移る。 発問例①「言葉と画像は同じ内容を伝えていますか」 発問例②「初めて見る人に説明が足りない部分はありますか」 声かけ「まず内容を配置し、最後の 5 分で文字・音声・出典を点検しましょう」	狙い:根拠のある作品にする。 評価:読みやすさ・内容・出典を点検したか。
5 分	ペア共有と振り返り 一人約 1 分で説明。残り 3 分で助言・修正点・次の作業を記録し提出する。	作品から伝わったことと改善点を返させる。未完成は構成とできた部分を保存する。 発問例①「意図したことは相手に伝わりましたか」 発問例②「次に何を直したいですか」 声かけ「交代で説明し、助言を 1 つ返して、修正点と次の作業を書きましょう」	狙い:反応を受けて改善する。 評価:助言と具体的な改善点があるか。

指導上の留意点 3 ポイント

- ① 共感を本人の言葉で表す。体験者の心情を代弁・断定せず、受け止めたことを示す。
- ② 根拠を確認する。写真の場所、数値の範囲、証言の語り手・文脈を確かめる。
- ③ 表現手段を選べるようにする。顔出しやつらい体験の開示を求めず、音声・写真・文章でも伝えられる。

到達のイメージ

一つのメッセージを事実と現地体験で支え、動画・スライド・ポスターに表し、ペアの反応を受けて見直す。

制作の 5 段階 具体的な進め方

50 分で進めるため、制作前に形式と素材を用意しておく。教員は各段階の残り時間を告げる。操作で止まる生徒には、紙に内容を書いて進める方法を示す。

① テーマとメッセージを明確にする

目的確認の 5 分で形式と受け手を決め、次の 8 分で体験と根拠を整理する。写真・メモから具体的な場面を選ぶ。『私は〇〇を伝えたい。なぜなら〇〇だから』と書き、事実の資料名も記す。現在の社会や自分の生活とのつながりを考える。

発問例①「何を見聞きし、考えが変わりましたか」 発問例②「その気づきは、今の暮らしとどうつながりますか」

声かけ「まず具体的な場面を選び、そこから伝えたいことを一文にしましょう。」

② 構成を検討する

構成・原稿の 12 分では、導入・展開・結びの順に整理する。動画は 15 秒・30 秒・15 秒を目安にする。スライドは 3 枚、ポスターは 1 枚に 3 つの内容を配置する。前半 8 分で案を作り、後半 4 分でペアに説明し助言をもらう。

発問例①「最初の言葉で、何に関心を持ってほしいですか」 発問例②「最後に、どんな問いを残したいですか」

声かけ「3 つの区切りに見出しを付け、話す順番を並べてみましょう。」

③ 原稿を作り、素材を集める

原稿は短く分かりやすい言葉で書く。動画は 300 字前後を仮の目安に、読んで約 1 分に調整する。スライド・ポスターは本文を写し込まず、見出しと短い説明に分ける。使う写真・図に対応する説明と出典を記し、素材が足りなければ手描きの図でもよい。

発問例①「この写真は、どの言葉を支えていますか」 発問例②「事実と自分の考えの境目は分かりますか」

声かけ「原稿の横に使う素材と出典を書き、足りないものに印を付けましょう。」

④ 表現し、制作する

制作の 20 分は、前半 15 分で内容を形にし、後半 5 分で点検する。動画は写真・字幕・音声をひな形に入れる。スライドは 3 枚程度に写真と短い説明を配置する。ポスターは大きな見出し、写真や図、説明、結びの問いを 1 枚にまとめる。装飾より読みやすさと事実を優先する。

発問例①「受け手が言葉を理解する間がありますか」 発問例②「音や画像は、内容を分かりやすくしていますか」

声かけ「一度録音・再生し、聞こえにくい部分や読みにくい字幕を直しましょう。」

⑤ 振り返り、改善する

点検では誤字・場所・数値・出典、文字の大きさ、音声の聞きやすさを確認する。最後の 5 分は一人約 1 分で説明し、相手から伝わったことと改善点を聞く。残り 3 分で修正点と次の作業を記録して提出する。時間内に直せない部分は印を付ける。

発問例①「受け手が理解した内容と、意図は一致しましたか」 発問例②「より伝わるようにするには、何を残し何を減らしますか」

声かけ「助言から改善点を 1 つ選び、修正前後を比べましょう。」

記録させる内容

手持ちの用紙・ノート・端末に、①伝えたいことと理由、②根拠と出典、③導入・展開・結び、④助言と修正点、⑤次の作業を記録する。原稿の書き方が分からない場合は、この 5 項目を順にメモするところから支援する。

学級に応じた運用 評価と共有

4 学級に応じた進め方 各 50 分

プラン	50 分の進め方	支援のポイント
1 協働型	目的 5 分 → 体験・根拠 8 分 → 構成・対話 12 分 制作・点検 20 分 → ペア共有 5 分	導入期向け。構成の型を示し、友達の助言を手がかりにする。
2 併用型	目的 5 分 → 個人で根拠整理 8 分 → 構成 12 分 制作・点検 20 分 → ペア共有 5 分	自分の原稿を持ってから比較する。内容を絞る助言を重視する。
3 自立型	目的 5 分 → 資料確認 8 分 → 構成・根拠検討 12 分 制作・自己点検 20 分 → 共有 5 分	初稿と修正版を残す。伝え方を変えた理由まで説明させる。

50 分で完成させるための事前準備

動画は写真 3～5 枚と短い字幕・音声を使うひな形を用意する。スライドは導入・展開・結びの 3 枚程度、ポスターは見出し・写真や図・説明・問いを 1 枚に配置する。素材の検索や新規撮影から始めず、内容づくりに時間を使う。

本時はペアで約 1 分ずつ説明して共有する。全員の発表会や複雑な動画編集は別時間に行う。完成に至らない場合は、原稿・構成とできた部分を保存し、次の作業を明記する。

5 評価の観点と返し方

観点	見取ること	具体的な支援・フィードバック
メッセージ	一番伝えたいことが明確で、本人の体験や気づきにつながっている。	「伝えたいことを一文にすると何ですか。そこにつながる場面を残しましょう」
根拠と歴史理解	事実・出典が確認され、本人の推察や感想と区別されている。	「この数値や証言はどの資料ですか。自分の考えには『私は』を付けてみましょう」
表現と受け手	言葉・構成・音声・素材が、初めて学ぶ人にも理解しやすい。	「知らない人が困る言葉はどれですか。説明を添えるか言い換えましょう」
平和への思考	歴史や体験から、現在・未来への問いや考えるきっかけを示している。	「この学びから、自分や受け手がこれから考えたいことは何ですか」

制作技術、装飾の量、顔出しの有無、感情の強さ、特定の意見への賛同は評価しない。選んだ根拠・考えのつながり・助言による改善を見取る。

6 発表・共有と次の学び

聞き手は、①伝わったメッセージ、②根拠や場面、③新しく生まれた問いを短く記録する。制作者は、受け手の反応を見て意図との違いを振り返る。発表後に『これから確かめたいこと・伝え続けたいこと』を一つ書き、事前の問いや現地メモと比べる。

教員の発問例①「他の作品から、自分になかった見方を得ましたか」

発問例②「伝える活動を通して、沖縄戦や平和について何を考え直しましたか」

声かけ「友達の作品で生まれた問いを一つ選び、次に調べたいことを書きましょう」

7 素材の確認と出典

使用写真は場所・内容を確認し、人物が識別できる画像や録音は本人・施設の意向に配慮する。音楽・画像・証言は利用条件と出典を確認する。校内共有と外部公開を区別し、公開する場合は学校の手続きに従う。

参照：提供スライド「探究ワーク：『沖縄戦のリアル』1 分間動画作成(または 1 分間スピーチ)」「制作のヒント」「制作の手順」。表紙は 1 枚目のスライドのみ使用。